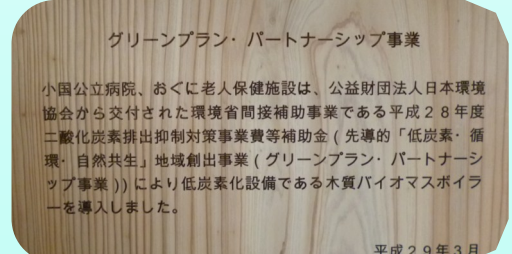


# ～環境にやさしい小国郷の病院として～

日本はエネルギー資源が少なく、その大部分は外国からの資源輸入と原子力発電所に頼っている事は、ご存知のとおりです。

一方、我が小国郷は、再生可能エネルギーを利用し、環境にやさしいエネルギーを得ることができる、日本屈指の土地の恵み豊かな土地です。医療の分野でもこの土地の力を利用しない手はありません。環境や自然を守るために、二酸化炭素の排出量を少なくする事は、国の政策としても力を入れられているものです。

環境省の助成金事業として全国から公募された「グリーンプラン・パートナーシップ事業」というものに小国町が選ばれ、平成27年度より、公立病院組織に、低CO2設備の導入を行いました。これは、九州内の公立病院で初めての画期的な取り組みとなりました。



この事業で、平成27年度には、公立病院の屋上に太陽光発電システムを

置き、公立病院と老健施設にLED照明機器を導入しました。

そして、平成28年度には、老健施設の敷地内に木質チップボイラーを導入、公立病院と老健施設に熱供給（給湯および暖房）ができるようになりました。総事業費は、1億9千万円程度ですが、そのうち1億1千万円以上は、環境省の助成金で賄われました。

LED照明機器や太陽光発電システムの導入により、電力使用量を削減し、結果、排出CO2を削減できます。そして、医療に不可欠な電気のコスト削減が期待できます。

さらに、木質チップボイラーの燃料は、小国郷産の原木を活用し、郷内の事業者からチップを購入する事により、炭素の内部循環と共に、経済の内部循環も期待できるものです。

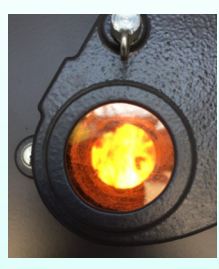
小国郷の豊かな自然を守るためにできること、小国郷だからこそできること。小国郷で最も職員の多い組織として、医療以外の面でも公立病院にできる事を探していきたいと思えます。



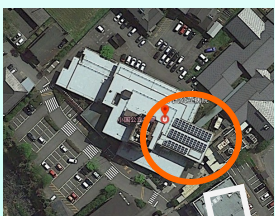
使用する木質チップ 地下に大量投入



木質チップボイラー施設



木質チップボイラー施設 心臓部



小国公立病院 上空写真

(Googleマップより)



屋上に設置されているソーラーパネル

# ゆたあ〜と

発行  
小国公立病院  
0967-46-3111  
おぐに老人保健施設  
0967-46-6111  
訪問看護ステーション  
0967-46-6050  
小国調剤薬局  
0967-46-5736  
ゆう薬局  
0967-46-6320

5月号  
平成29年5月1日



## 平成29年度の『公立病院の船出』 小国公立病院 副院長

### 看護師を『紹介下さい』

片岡恵一郎

平成29年度が始まりました。毎年1月頃から、翌年度の体制が徐々に明らかになってきます。ここ数年間は病院の存続に関わる様な出来事が毎年起こり、その対応に追われ、年度末の院内は穏やかに過ごせたためしがありません。

よそからの派遣に頼った医療というのは、つまりそういうことなのだ、と思いきらされる時期です。昨年の春には、常勤医の脳神経外科と小児科の医師が退職し、医師の補充がなかったというのは皆さんの記憶にも新しいのではないかと思います。

そういう中で、この春には、外科の医師の派遣が1人減ってしまい、常勤の外科は坂本院長と堀江副院長のみになってしまいました。また、小児科専門医外来は、毎日ではなく、月・水・金の週3日となってしまうました。地震後の人事の関係で、医師派遣が継続が出来なくなったこと。小国で子育てをされる世代、そして子供達にとつては一大事だと思えます。

看護師不足に関しても、厳しい状況が続いており、今年の8月までに、あと2人新規に看護師を雇用しなければ、現在の2病棟+外来+訪問看護を、現在と同じ形で維持することはできなくなります。小国郷で入院ベッドが不足し、入院難民が出てしまう事態は避けたいので、職員総動員で看護師を探し始めたところです。こちらは医師不足よりも切迫した状態で急

「小国郷住民の皆さんにお願い」  
8月以後の公立病院の医療体制を現状通り維持する為に、知り合いの看護師を『紹介下さい』  
住民のみなさんのご協力よろしくお願い致します。

明るい話題もいくつか。  
▼総合診療科は、首の皮一枚で自治医科大学からの派遣が継続となりました。少なくとも今年には減員されることなく、4名体制で診療を継続致します。▼非常勤医師で成り立っている専門外来は、小児科以外の全ての枠が昨年通り保たれています。いつ派遣が中止になってもおかしくない状況の中、今年も非常勤医派遣が保たれた事は町の方にとつて喜ばしいことです。▼小児科外来は、木曜日の枠を埋めて下さる医師ができています。▼今年も熊本の大病院の研修医の先生が月替りで、研修という名のお手伝いに来てくれます。▼熊本赤十字病院から、支援看護師が半年交代で来てくれています。

小国郷外からの支援で成立している、小国郷の医療。お互いに利のある関係性ではなく、見るに見かねて身を切つて支援して頂いている側面が大きい状況です。そういう意味では、支援は好意以外の何ものでもなく、安定しているものではありません。つまりとて、医療資源の地産地消が、地方が生き残る為の必須条件になってきているという事です。

最後に住民の皆さんに届く様、もう一度大きな声で。



# おぐくに老健だより 唄や踊りの楽しい時間!!

H 29年3月8日の午後、阿蘇小国郷ライオンズクラブ主催の施設慰問が行われました。

阿蘇小国郷ライオンズクラブは年に1度、奉仕活動の一環として施設等を慰問されており、今年はおぐくに老人保健施設に「公益財団 日本民謡協会 藤本 喜代則師範」率いる『藤本流喜代則会』の皆さんが、雪が舞う中熊本市内からはるばるお越し下さいました。

## 最初は利用者

の皆様も何事が起こるのかと不思議そうなお顔をしましたが、喜代則師範の軽快な口調に皆さん引き込まれていき、「小国セレーナーデ」や「おてもやん」などのなじみ深い曲に、三味線と和太鼓の音色、日本舞踊を堪能され、次第に拍手や



歌声が大きくなり、「昔、踊っていた」と曲に合わせ嬉しそうに腕をあげ踊られる利



用者様もいらつしやいました。



その他ソーラ

## 頭、五木の子

守唄、老健スタッフも踊った炭坑節、ライオンズクラブの方々の尻文字クイズなど、約1時間の楽しい時間を過ごし、「懐かしい歌が聴けて嬉しかった」「楽しかった」と、笑顔でいっぱいになりました。



喜代則師範、喜代則会の皆様。そして小国郷ライオンズクラブの皆様。

本当にありがとうございました。またのお越しをお待ちしております。

本当にありがとう



## ～新任紹介～

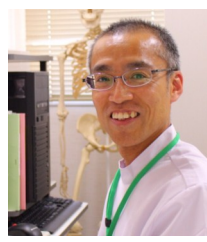
**中山 彩季**(なかやま さき) 看護師  
所属:3階病棟

4月から半年間、3階病棟でお世話になります。中山彩季(なかやま さき)と云います。熊本赤十字病院の血液・腫瘍内科である4階西病棟に勤務しています。看護師3年目とまだまだ未熟ですが、微力ながら少しでもできることがあるならばと出向を希望しました。小国はご飯は美味しい温泉も沢山あると聞いて、とてもわくわくしています。至らない点多々あるかと思いますが、明るく元気に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



**姉川 輝明**(あねかわ てるあき) 放射線科技師  
所属:放射線科

4月より診療放射線技師として採用して頂きました姉川です。湯布院厚生年金病院、荒尾市民病院で臨床経験をし、気がつけば四半世紀が過ぎ、「新人さん」と呼ばれるのが恥ずかしい歳となってしまいました。小国町を散策していると、改めて水の豊かさに驚かされ、この地に住むことが出来て良かったと実感しています。今年度の目標は、「熊本城マラソン」への参加です。スポーツもお酒も大好きなので、何かの機会にはぜひお誘い下さい。



## ～熊大・日赤からの支援医師のご紹介～

**押川 英仁 先生** 診察日:総合診療科  
(おしかわ ひでひと) 毎月第1木曜日



熊本赤十字病院に勤務しております。時間があれば温泉に行くくらい温泉大好き人間です。気軽に何でもお話し頂けると嬉しいです。よろしくお願いいたします。

**岡 保伸 先生** 診察日:泌尿器科  
(おか やすのぶ) 毎週金曜日



この度H29年4月から泌尿器科外来を担当させて頂きます。普段が熊本大学医学部附属病院に勤務しております。週1回と少ない外来日ですが、できる限り多くの患者さんの診療ができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

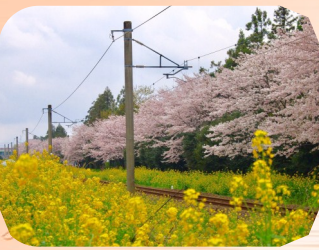
**澤山 浩 先生** 診察日:外科  
(さわやま ひろし) 毎週金曜日



熊本大学附属病院消化器外科より、週1回外来を中心に診療させて頂くこととなりました。胃・大腸を中心に消化器疾患を専門に診療させて頂きます。よろしくお願いいたします。

## ゆたあ〜とギャラリー

撮影者:市川看護師



## 職員川柳

妻からの見送り求めず  
日々付度(そんたく)  
詠み人 いわちゃん

桜道  
映える黒のランドセル  
詠み人 岩ちゃん

この季節  
灯油を買うか  
迷い時  
詠み人 いわちゃん

次号のゆたあ〜と新聞はH29年7月3日(月)に発行予定です。お楽しみに!!